

膵体尾部切除施行例における炎症性マーカーの短期・長期予後の予測因子としての有用性の検討に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成 29 年 4 月 5 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日

〔研究課題〕

膵体尾部切除施行例における炎症性マーカーの短期・長期予後の予測因子としての有用性の検討

〔研究目的〕

通常の血液検査で評価可能な炎症性マーカーが膵体尾部切除後の術後合併症と長期予後に及ぼす影響について明らかにすること

〔研究意義〕

炎症性マーカー（NLR:好中球数/リンパ球数、PLR:血小板数/リンパ球数、CAR:CRP/アルブミン値など）が、癌患者の長期予後および術後合併症の予測因子として有用であることが報告されています。膵切除の対象となる疾患では胆管狭窄による胆汁うっ滞を伴うことが多く、その場合胆汁うっ滞による炎症の影響を完全に排除するのは困難です。そこで胆汁うっ滞の影響を受けない膵体尾部切除術施行例において、炎症性マーカーの長期予後および術後合併症の予測因子としての有用性を検討するために本研究を立案しました。本研究により術前に術後合併症発生の危険群と長期予後を予測することが可能になると考えています。

〔対象・研究方法〕

2007 年 1 月から 2016 年 12 月までに帝京大学医学部附属病院外科で膵体尾部切除術が施行された症例を対象とします。炎症性マーカー（NLR:好中球数/リンパ球数、PLR:血小板数/リンパ球数、CAR:CRP/アルブミン値など）の低値群と高値群に分類し、術後合併症と生存率との関係を統計学的に解析します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院外科

〔個人情報の取り扱い〕

本研究で患者様のデータを取り扱う際は、個人情報保護に十分配慮します。研究の成果を公表する場合は、患者様を特定できる情報を含まないようにし、本研究の以外の目的で患者様のデータを使用することはありません。

〔その他〕（健康保険・謝金等について、必要に応じて記載する。）

本研究は後ろ向きの観察研究であり、患者に費用負担および健康被害は生じません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者: 帝京大学医学部外科学講座 准教授 三浦文彦

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211 (代表) [モバイル 7136]